

Building Data Lakes on AWS

AWS クラスルームトレーニング

コースの説明

このコースでは、構造化データと非構造化データの両方の分析に対応するデータレイクを構築する方法を学びます。データレイクの作成に関連するサービスのコンポーネントや機能について学習します。AWS Lake Formation を使用してデータレイクを構築し、AWS Glue を使用してデータカタログを構築し、Amazon Athena を使用してデータを分析します。講義とラボを通して、一般的なデータレイクアーキテクチャについての詳細を学びます。

レベル	実施形式	所要時間
中級	クラスルームトレーニング 講義、ハンズオンラボ	1 日

コースの目標

このコースの学習内容は、以下のとおりです。

- データレイクの計画と設計にデータレイクの方法論を適用する
- AWS 上にデータレイクを構築するのに必要なコンポーネントとサービスを明確にする
- データレイクを中心としたデータの取り込み、保存、変換の方法を明確にする
- 適切な権限でデータレイクを保護する方法を説明する
- データレイク内のデータを分析して可視化する
- モダンデータアーキテクチャにおけるデータレイクの役割を説明する

対象者

このコースは以下のような方を対象としています。

- データプラットフォームエンジニア
- ソリューションアーキテクト
- IT プロフェッショナル

Building Data Lakes on AWS

AWS クラスルームトレーニング

前提条件

このコースを受講するにあたって、以下の前提条件を満たしておくことをお勧めします。

- [AWS Cloud Practitioner Essentials](#) クラスルームコースまたは [AWS Cloud Practitioner Essentials](#) でデジタルコース、[AWS Technical Essential](#) クラスルームコースの修了
- データ分析パイプラインの構築に関する 1 年間の経験、または [Data Analytics Fundamentals](#) デジタルコースの修了

登録

<https://www.aws.training/training/schedule?courseId=65039&countryName=JP&trainingProviderId=1>

コースの概要

1 日目

モジュール 1: データレイクの概要

- データレイクの利点と課題について説明する
- データレイクとデータウェアハウスを比較する
- データレイクのコンポーネントとアーキテクチャについて説明する

モジュール 2: データの取り込み、カタログ化、準備

- ストレージとデータ取り込みの関係を説明する
- データのフォーマット、パーティショニング、圧縮を行い、効率的なストレージとクエリを実現する
- AWS Glue クローラーを使用してデータカタログを作成する方法について説明する
- データカタログを通じてアクセスされるデータに関するセキュリティポリシーを説明する
- Amazon Athena を分析ツールとして使用して、データレイクアセットのクエリを行う

モジュール 3: AWS Lake Formation を使用したデータレイクの構築

- AWS Lake Formation の機能と利点を説明する
- Lake Formation を使用してデータレイクを作成する
- Lake Formation セキュリティモデルを理解する
- ラボ 1: AWS Lake Formation を使用してデータレイクを構築する

Building Data Lakes on AWS

AWS クラスルームトレーニング

モジュール 4: データ処理と分析

- データ処理がデータレイクにどのように適用されるかを理解する
- AWS Glue を使用してデータレイク内のデータを処理する

モジュール 5: Lake Formation のその他の設定

- ブループリントとワークフローを使用して AWS Lake Formation データレイクの構築を自動化する
- Lake Formation にセキュリティとアクセス制御を適用する
- Amazon QuickSight でデータを可視化する
- ラボ 2: ブループリントとワークフローを使用して AWS Lake Formation データレイクの構築を自動化する

モジュール 6: モダンデータアーキテクチャ

- Amazon Web Services (AWS) のモダンデータアーキテクチャの主な機能を説明する
- 企業データ共有を促進するためのアプローチを評価する
- ラボ 3: 製品としてのデータの公開と利用

モジュール 7: コースのまとめ

- まとめ
- 学びを継続しましょう